

学校規模に係る諸問題

学校規模の大小により、児童生徒の学習面、生活面、学校運営等において、それぞれ長所、短所があります。小規模校では、児童生徒一人ひとりの学習状況が把握しやすく、個に応じた指導を図ることができたり、子どもの理解が担任だけでなく多くの教員で共通認識できたりするなど、小規模校だからこそできる教育上の利点もあります。また、大規模校では、児童生徒の人間関係が広がり、多様な考え方や表現に触れることで自分の考えや表現が深まったり、クラス替えにより環境を変えることで切磋琢磨できたりするなど教育効果を上げることができます。

しかしながら、小規模、大規模校には問題点も多くあり、児童生徒の生活・学習指導面や学校運営面についてまとめると次のようになります。

1 小規模校の問題点

(1) 児童の学習面、指導面

- ・ 体育でのサッカー、バレーボール等の球技や、音楽での合唱、合奏など、学習そのものの成立が難しいことがある。
- ・ 学校行事における集団活動の活性化が難しい。
- ・ 話し合いの場やグループ学習では、学級人数が少ないため、意見の多様性に乏しく、学習内容の深まりや広がりが難しいことがある。
- ・ 多くの友達と協調性、連帯性を培い、向上心を育て、互いに切磋琢磨して伸びていくことが難しい。

(2) 児童の生活面の問題

- ・ 児童の価値観が固定化され、多様なものの見方、考え方を学んだり、新しい人間関係を作り上げようとしたりする機会が少なくなる。
- ・ 小学校入学時から同じ学級集団で過ごすことから、人間関係が固定化され、簡単な表現でコミュニケーションがとれてしまう。そのため、表現力や人間関係への変化に対応していく力が育ちにくい面がある。また、人間関係上の諸問題が発生した場合は、学級編成替えによる問題の解消が難しくなる。

(3) 学校運営上の問題

- ・ 教員が少なくなり、指導計画、評価、教材研究等を全て個人作業で行うこととなる。また、共同研究が難しく、教員相互の連携や切磋琢磨する機会が少なくなる。
- ・ 無担任の教員がいないため、宿泊学習や校外学習等で引率者を十分確保できない。
- ・ 教員数が少ないため、緊急時において、対応できる職員数が少なく、十分な対応ができないことがある。

(4) 複式学級の問題点

- ・ 教師の直接的指導を受ける時間が不足し、児童は自学自習する必要がある。
- ・ 複式学級においては、同時に複数の学年を指導することになり教師にとって負担が大きい。
- ・ 集団による学習ができない。

2 大規模校の問題点

(1) 児童の学習面、指導面

- ・児童一人ひとりが授業で体験し、活躍する場が少ない。
- ・特別教室、体育館、運動場等の施設面において制約があり、十分な教育効果を上げることが困難になる。
- ・教材、教具等の使用が十分行き渡らない。また、破損や消耗が激しい。
- ・集団に埋没し、個性を発揮できない児童が出てしまうことがある。
- ・役割分担のない児童が生じやすく、行事等への参加意識が低下しやすい。
- ・人数が多いため、活動に時間がかかり、効率が悪くなったり、安全性に欠けたりする。

(2) 児童の生活面の問題

- ・異学年での人間関係が希薄になりがちになる。
- ・指導が必要な児童生徒の早期発見が難しい。

(3) 学校運営上の問題

- ・教員数が多いため、教員間の意思疎通や連絡調整が不十分になることがある。

3 魚津市における状況

魚津市における学校規模に係る問題点についてまとめると次のようになります。

- (1) 小学校では、過小規模校が現在1校あり、今後、6年間で小規模校の8校のうち、4校に複式学級の発生が予想される。また、他の小規模校も急激に児童数が減少することが予想される。
中学校では、両校とも1学年5～6学級であり、適正規模校である。
- (2) 現在魚津市に大規模校はない。